

令和7年度第2回我孫子市総合教育会議 概要

- 件名／令和7年度 第2回我孫子市総合教育会議
- 日時／令和7年12月24日（水）15：30～17：10
- 場所／教育委員会大会議室
- 出席者／星野市長、丸教育長、村松教育委員、新山教育委員、中村教育委員、高見澤企画総務部長、佐藤教育総務部長、菊地生涯学習部長、山崎教育総務部次長、（教委総務課）高橋課長、尾高課長補佐、（指導課）鈴木課長、（教育相談センター）遠藤所長、並木課長補佐、（秘書広報課）安武課長、小原係長
- 傍聴者／なし
- 議題
 - I. 不登校・いじめの現状と、支援・対策について
 - ①教委総務課より、議題の経緯について説明後、我孫子市の不登校支援について、教育相談センターより説明を行い、意見交換を行った。
- （意見交換）
 - 以前は、不登校や学力が満たない等の理由から通信教育を選択する生徒がいたが、最近は、時間を有効活用するために通学時間等が不要な通信教育を選択する生徒が増えている。通信教育の選択理由が変わっている。
 - 不登校をやめさせ、通常学級へ戻そうと無理に進めていくのではなく、多様な選択肢があってよいと思う。
 - 必ずしも集団生活をしなければならない時代ではない。
 - コロナ禍以降、大学では、オンライン又は対面など受講方法を学生が選択でき、オンラインを選択する学生が多いと聞く。自分に合った方法を選択できる時代であり、色々な選択肢が必要になっている。
 - 高校進学説明会に、通信教育の学校が数校来ていた。通学時間がもったいない、やりたいことに時間をかけられるよう通信教育を選ぶ生徒が増えていると聞いた。進学の捉え方が変わってきていると感じた。
 - 取り残されない教育の推進が必要と思う。

- 不登校はネガティブなイメージがあるが、一人一人に合った支援、尊重できる支援があることは素晴らしいと思った。より良い支援につながるよう、今後も推進していってほしい。
- 社会生活をする上で、集団生活や人とのコミュニケーションは必要なことだと思うが、人それぞれ得手不得手があるので、得意分野を見つけ、支援していくことが必要と思う。

②我孫子市のいじめの現状と対策について、指導課より説明を行い、意見交換を行った。

(意見交換)

- 全国的な傾向として中学校より小学校でのいじめの認知件数が多く、我孫子市も同様の傾向がある。
- 全国的な傾向として、いじめの態様では、からかいや悪口など言葉によるものが多く、続いて、叩いたり、蹴ったりなどの暴力行為が多くなっており、我孫子市も同様の傾向がある。
- 低学年では、思いがうまく言葉にできず、つい手が出てしまうことがある。すぐに解決できるものも多いが、課題となっている。
- 低学年時の思いがうまく言葉にできず、つい手が出てしまう傾向は、高学年になっても続いているのか。
- 加害者側は傷ついている自覚がない場合がある。加害者側が嫌がらせやいじめるつもりがなくとも、被害者側は、嫌な思いやいじめと感じる場合があることを伝える必要があると思う。
- 被害者にも加害者にも大人は寄り添う姿勢が必要と思う。
- 見て見ぬふりをするなど傍観者になるのは報復が怖いからと思う。傍観者にならないように指導・支援する必要があると思う。
- 相談できる環境づくりが大切と思う。
- 相手とぶつかることもよいことだが、闘争心のようなものは必要と思う。きめ細かな指導・支援が必要と思う。
- 人それぞれの考え方があり、意見の食い違いは生じるものと思う。意見や考えがぶつかり、話し合い、わかり合い、親友になっていくと思う。
- 子どもたちには、嫌な思いをしないで卒業していってほしい。いい思い出とともに成長していってほしい。

2. その他

11月6日に開催した子ども議会の報告と今後の課題について、指導課より説明を行った。

以上